

<概要版>

栃木市上下水道事業調査委員会(第2回)会議録

開催日時	令和7年11月11日(火) 9:30~10:35
開催場所	栃木市上下水道局庁舎 管理棟会議室
出席委員	藤井亮二委員、湯川晴美委員、岡田真由美委員、門沢イミ子委員、青木晴美委員、葛生明雄委員、安藤宣好委員、池澤佐知子委員、大浦兼政委員、市村隆委員 以上10名
市	上下水道局長 上下水道総務課:課長、副主幹兼経営係長、課長補佐兼経理係長、副主幹兼料金係長、経営係職員 水道建設課:課長、課長補佐兼施設係長、主幹兼建設管理係長、副主幹兼給水係長 下水道建設課:課長、課長補佐兼管理係長、建設係長、課長補佐兼保全係長
局長あいさつ	押山局長よりあいさつ
委員長あいさつ	藤井委員長よりあいさつ
議事概要	<p>(1) 令和6年度公営企業会計決算状況について(課長補佐兼経理係長より説明)</p> <p>【委員質疑】</p> <p>下水道の補助金(基準内繰入金)の国の基準の最近の動向はどうか。</p> <p>(回答)</p> <p>国の基準は基本的に変わっていない。</p> <p>【委員質疑】</p> <p>補助金の国の基準が変わってしまうと、収支に大きく影響を与えると受け止めてよいか。</p> <p>(回答)</p> <p>そのとおりである。基準内補助金については、国の基準が変わってしまうと収支に影響が出るため、その場合には、下水道使用料等で賄わなければならない費用が増えることが考えられる。</p> <p>【委員質疑】</p> <p>最近、他市町村では、水道料金の大幅な値上げを予定している。栃木市は令和6年に料金改定を行ったので今回収支が黒字になったと説明があったが、水道事業決算の数字を見ると、老朽化した水道管の更新について、そこだけにお金をかけることも厳しいだろうと想像がつく。更新工事を少しでも進める方策はないのか。</p>

(回答)

管の更新を進めるにあたっては、水道料金や下水道使用料が原資になっており、本市としては令和6年4月に料金値上げをしたところである。しかし、近年の物価高騰に伴う急激な費用の増加を考えると、水道事業を維持するためには料金改定を考えなければならないが、まずは、できる限り効率的に、費用を抑えて経営を維持していく形で対応していきたい。現在予算要求等行っているが、どのように老朽管の更新等をしていけば効率的に行えるか検討している。

【委員質疑】

未収金の回収はなかなか厳しいとしても、漏水を抑えて有収率を上げるために老朽管の更新については考えなければならない。上下水道料金を値上げした際、いずれまた値上げの時期が来るだろうという見立てもあったと思う。効率的な経営で対応するというのは市民に寄り添ったものだが、実際に事業として成り立たなければならないため、時には心を鬼にしなければいけないのかなと感じた。

(回答)

補足として、4月、5月に入る3月末の水道料金は、企業会計では未収金の中に含まれてしまう。最終的な収入率で見れば、99%以上となっている状況である。

【委員質疑】

栃木市は有収率がかなり低い地域だが、今回の決算でその有収率はいくつだったのか。また、漏水した水は、金額に変えるといくらなのか。

(回答)

令和6年度の有収率は、67.3%で、前年度から2.8%下がってしまっている。漏水した水にかかっている費用は、水を汲み上げるための電気代、次亜塩素酸などの薬品費、それに付随する様々な動力費などである。参考的な金額を計算し、後でお知らせする。

【委員意見】

パーセンテージだけでなく、ある程度具体的な金額等を教えていただくとわかりやすくてよい。

【委員質疑】

今行っている、衛星を使った漏水調査の状況を説明してほしい。

(回答)

衛星画像による漏水調査を令和6年度から実施している。衛星画像を基に、土壌の条件、気温、地形などを加味してAIが示した漏水危険箇所について、現在漏水調査をし、その結果に基づき漏水修繕をしているところである。

【委員質疑】

経費を下げていくためには、広域の事務連携が重要になってくる。その進捗について説明してほしい。

(回答)

鹿沼市、佐野市、足利市、栃木市の4市で、料金徴収業務の共同発注をメインに協議を進めている。今月も足利市で会議が予定されており、担当者レベルでの協議も随時進めている状況である。現在当該業務を業者に委託している期間が各市で異なるため、委託期間を合わせるかどうかということも含めて協議をしている状況だが、令和11年度からの共同発注を予定している。

(2) その他

・普及活動の報告について（副主幹兼経営係長より説明）

【委員質疑】 なし